

## 用語の解説

	用語	解説
あ 行	アプリ	アプリケーションの略語で、スマートフォンやタブレットなどの機器で起動するソフトウェアのことです。柏市(沼南地域)では「さんあ〜る」というごみ分別アプリがあり、鎌ヶ谷市でも同様にごみ分別アプリが利用できます。
	一般廃棄物	産業廃棄物以外の廃棄物。一般廃棄物は「ごみ」と「し尿」に分かれます。また、「ごみ」は一般家庭の日常生活に伴って生じた「家庭系ごみ」と商店・オフィス・レストランなど事業活動によって生じた「事業系ごみ」に分類されます。
	SNS	ソーシャル・ネットワーキング・サービスのことで、インターネット上のコミュニティ・サイトを指します。会員登録をしているサービスを利用して、友人や同じ趣味を持つ人同士がインターネットを介して交流することができます。
か 行	環境負荷	人の活動により、環境に加えられる影響であって、環境の保全上の支障の原因となるおそれのあるものをいいます。
	グリーン購入	製品やサービスを購入する際に、環境を考慮して、必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入することです。施行されているグリーン購入法では、国等の機関にグリーン購入を義務づけるとともに、地方公共団体や事業者・国民にもグリーン購入に努めることを求めています。
	原単位	原単位は、一定量の生成物が生じる際の単位量のことです。ごみやし尿等の場合は、1人1日当たりのごみの排出量や1日当たりのし尿の排出量等を排出原単位とします。
	小型家電	スマートフォン、ドライヤー、ゲーム機や付属コードなどの、電気で動く小さな家電製品のことをいいます。
	ごみ質	ごみの物理的あるいは化学的性質の総称であり、通常、三成分(水分、可燃分、灰分)、単位体積重量(見掛比重)、物理組成(種類別組成)、化学組成(元素組成)及び低位発熱量等をいいます。
	ごみ焼却施設	ごみを燃やして容積を減らすための施設。国の指針では、処理能力、焼却残さ(燃え残ったかす)の性状、連続運転日数などの安定稼動状況、余熱の有効利用などについて性能と確認方法が定められています。

	ごみ組成調査	ごみ組成調査は、ごみの品目（組成）の重量比（％）を求めるものです。これらの情報から、ごみ減量の施策とリサイクルを推進する際の基礎資料となります。
さ 行	最終処分場	生活環境の保全に支障の生じない方法で、廃棄物を適切に貯留し、かつ生物的、物理的、化学的に安定な状態にすることができる埋立地及び処分に関連する設備を併せた総体の施設をいいます。
	産業廃棄物	事業活動に伴って生じた廃棄物のうち、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類などの政令で定める20種類の廃棄物をいいます。
	三成分	可燃ごみのごみ質を示す指標のひとつで、水分、可燃分、灰分のことをいいます。水分は乾燥させることにより減った量のことであり、乾燥したごみを燃やしたときに、燃え残った量を灰分、燃えて減った量を可燃分といいます。
	事業系ごみ	店舗・会社・工場・事務所などの営利を目的とするものだけでなく病院・学校・官公署など広く公共サービス等を行っているところも含めて、事業活動に伴って生じた廃棄物を事業系廃棄物(事業系ごみ)としています。本計画では、事業系一般廃棄物を指します。
	資源化率	資源化率とは、排出されるごみに対して総資源化量がどの程度であるかを示す数値のことです。
	循環型社会	廃棄物として排出することを抑制し、排出された廃棄物はできるだけ資源として適正に利用し、最後にどうしても利用できないものは適正に処分することで、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会のことです。
	食品廃棄物	廃棄される食品の中で、まだ食べられる食べ物と、食品加工の段階で出る肉や魚の骨などのもともと食べられない部分の両方を合わせたものをいいます。
	食品ロス	まだ食べられるのに廃棄される食品のことです。主に食べ残し、手つかずの食品(直接廃棄)、皮の剥きすぎなど(過剰除去)が発生要因です。
	3R（スリーアール）及び 5R（ファイブアール）	排出抑制(Reduce:リデュース)、再利用(Reuse:リユース)、再資源化(Recycle:リサイクル)の3つの英語の頭文字を表しています。 さらに、本計画は上記3つに、発生抑制(Refuse:リフューズ)と修繕利

		用(Repair:リペア)を加えて、5Rの実践を推進します。
	剪定枝 (せんてい えだ・せんてい し)	庭木を剪定した際に出る枝のことです。
た 行	低位発熱量	ごみを焼却炉で燃焼させた時に生じる熱量のことをいいます。
	トレンド推計法	過去の動態(傾向)が、将来も同じように推移するという考え方に基づく推計方法であり、数学的手法を用いて将来推計を行う方法のことをいいます。
は 行	破砕処理施設	燃やさないごみや粗大ごみを破砕・選別により減容化する施設です。
	プラスチック製容器包装	商品を入れたもの(容器)や、包んだもの(包装)であり、中身の商品を取り出した(使った)後、不要となるプラスチック製のものをいいます。
	排出原単位	単位当たりの量を示す用語で、ごみの場合は、1人1日当たりのごみの排出量を指します。また、二酸化炭素の場合はごみ1トンから発生する二酸化炭素の量を指します。
	物質循環	自然界においてさまざまな物質が循環的な動態をとることを指している概念で、炭素循環や窒素循環など元素単位で示すことや、水循環など化合物単位で捉えられます。
や 行	有害物	人体に害を及ぼす物質を含む廃棄物をいいます。蛍光管、乾電池、水銀体温計などがあげられます。
ら 行	リサイクルセンター	廃棄物の資源化関連事業を行う施設をいいます。  燃やさないごみ・粗大ごみ等から鉄・アルミニウム等の金属、ガラスカレット、生き瓶等の回収・資源化を行うとともに、不用品の補修、再生品の展示・販売等も行っています。